

過去の噴火による噴出物

北海道駒ヶ岳の将来の噴火にそなえるにあたって、過去にどのような噴火をし、どのような噴出物を積もらせたかを知っておくことは大切です。寛永17年(1640年)から現在に至るまでに4回の大噴火を起こしており、火山周辺には、それらの噴出物が広く積もっています。右の図はこれらの噴出物を示したもので、広範囲に分布していることがわかります。昭和4年(1929年)噴火のような大きな規模の噴火では、北海道駒ヶ岳が直接見えない地域にも多量の降下火砕物が積もる恐れがあることに注意しましょう。

火砕流(軽石流)によって、埋めつくされた範囲

火砕流の火山灰・軽石などにより埋め尽くされた範囲を示したものです。火砕サージはこれらよりもやや広い範囲に広がったと想定されています。

昭和4年(1929年)の火砕流	
安政3年(1856年)の火砕流	
寛永17年(1640年)の火砕流	


降下火砕物(火山灰・軽石)が厚く積もった範囲

過去4回の大噴火では、市街地で100cm以上の降下火砕物が積もっています。寛永17年(1640年)の降下火砕物は北海道駒ヶ岳全域から北西方向にかけて分布し、元禄7年(1694年)・安政3年(1856年)の噴火による降下火砕物は東側に、昭和4年(1929年)は南東側にかけて分布しています。

昭和4年(1929年)の噴火で厚さ10cm以上降下火砕物が積もった範囲	
昭和4年(1929年)の噴火で厚さ1m以上降下火砕物が積もった範囲	
寛永17年(1640年)の噴火で厚さ10cm以上降下火砕物が積もった範囲	
寛永17年(1640年)の噴火で厚さ1m以上降下火砕物が積もった範囲	


土石流の流下域

寛永17年(1640年)の噴火後発生したものをはじめ、北海道駒ヶ岳の斜面では土石流が何回か発生しています。最近では平成8年(1996年)の小噴火の後にも発生しました。

昭和4年(1929年)の噴火後の土石流	
---------------------	--

岩屑なだれで埋めつくされた範囲

寛永17年(1640年)の噴火では山頂部が大規模に崩れて、東及び南側の山麓に土砂・岩塊が積もり、多くの流れ山(小丘)を形成しました。記録に残っている噴火では岩屑なだれはこの噴火の時にしか発生していませんが、北海道駒ヶ岳では過去に3回以上山体が崩れています。

寛永17年(1640年)の岩屑なだれ堆積物	
-----------------------	--

歴史時代噴火の噴出物の分布(図)

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)
R3JHs 251-GISMAP50328号

[参考文献]

- 勝井義雄・石川俊夫(1981) 北海道駒ヶ岳の活動史、噴出物およびDisaster Mapと災害評価。文部省科学研究費自然災害特別研究成果自然災害科学総合研究班「噴火災害の特質とHazardMapの作成およびそれによる噴火災害の予測の研究(研究代表者:下鶴大輔)」,23-29
- 勝井義雄・藤沢達也・知本康男・山田裕丈(1986) 北海道駒ヶ岳の歴史時代の火砕流。文部省科学研究費自然災害特別研究成果自然災害科学総合研究班「火山噴火に伴う乾燥粉体流(火砕流等)の特質と災害」(研究代表者:荒牧重雄),91-113
- 神津淑祐・渡邊萬次郎・吉木文平・益田峰一・渡邊新六・上田潤一・高根勝利・瀬戸國勝・八木次男・鶴見志津夫(1932) 昭和4年駒ヶ岳大噴火研究報告
- 佐々木龍男・片山雅弘・吾羽道三・天野洋司(1970) 渡島半島の火山灰について。北海道農業試験場土性調査報告,20
- 勝井義雄・鈴木建夫・曾屋龍典・吉久康樹(1989) 北海道駒ヶ岳火山地質図。地質調査所。

